

王であるキリスト マタイ25：31～46 最後の審判 川嶋さんのボランティア

今読まれた福音は、キリスト者が一番大切にすることが書かれています。キリスト者はどう生きたらいいのか教えてください。今日は、私にとってどんな意味がある箇所なのかご紹介します。

私は、大学を卒業してプレハブの住宅会社に就職しました。実家は千葉県ですが、配属先は名古屋でした。「家は一生に一度の買い物」と言われて、金額も高く、30年かけてローンを支払います。だから、皆さん慎重に検討されます。会社もたくさんあるので、競争も激しくなります。営業マンになった私も「自分に家など売れるのだろうか？」不安でした。半信半疑のまま1年目、2年目が過ぎました。3年目から売りが上げが伸びで、「これで何とかやっつけていけるかな？」と少し自信ができました。仕事のめどが立ってきたので、次は、休みの日を充実させようと考えました。会社の寮に住む同僚は、ドライブに行ったりパチンコに行ったりしていたのですが、自分はボランティアをしようと思いつきました。市役所に問い合わせたりしましたが、条件が合うのが見つかりません。すると、南山教会の入り口に「祈りと奉仕の集い レジオ・マリエ」というポスターがありました。早速、担当の神父さんにお会いすると筋ジストロフィーの方の入浴の介助の仕事があるからと言われ、一緒に聖霊病院に出かけました。60歳くらいの身寄りのない方の入浴の介助を二人でしました。次からは、「私一人でしてね」ということで、人生初めてのボランティアが始まりました。病室からその方を（川嶋さんとおっしゃるんですが）お風呂場まで、車いすで移動して、服を脱がせて、自分も服を脱いで、まず体を洗います。次に、湯船につかるんですが、私はその時にはもう、汗びっしょりです。一人で持ち上げたりしないといけないから力もいります。落とすでもしたら偉いことになるので神経を使います。前の晩、遅くまで仕事をしていると足下がぐらつきそうになったりすることもあるとあって、それをこらえるときは冷や汗もでます。ただ、そんな私とは裏腹に、お風呂好きの川嶋さんは、湯船でくつろいでいます。湯船につかっている時は、身障者と健常者の垣根が取り払われて、「今日も来て良かった」とうれしく感じました。はじめは、入浴の介助（ボランティア）にしか興味がありませんでしたが、レジオ・マリエの集会にも参加してロザリオを唱えるようになりました。毎回のボランティアをマリア様の心で奉仕しようという、心構えが出来てきました。結局、静岡県に転勤するまで3年間このボランティアを続けました。

私は、大学生の時に洗礼を受けましたが、家族も信者ではないし大学もカトリックという訳ではありません。会社に勤め始めて忙しくなって、教会から離れてしまってもおかしくありませんでした。でも、ボランティアとロザリオを続けたことが、信仰を成長させてくれました。今振り返っても良かったと思うのは、この機会は「人から言われたのではなくて自分から探した（神様が導いた）」とことです。人から勧められたりするのも悪くはありませんが、言われた通りにしていたらいい、と考えが甘くなることもあります。でも、自分一人だと強い責任感が生まれます。私の場合も「もし自分が行けなければ、川嶋さんは今日お風呂に入れたい」という責任感で体調やスケジュールを管理していました。厳しい仕事をしながら、川嶋さんのことを考えるようになれたことはとても良かったと思います。その3年間は恵みでした。

それから、8年経って私は「司祭になりたい、イエズス会に入りたい」と考え始めました。利害が絡む営業の世界と、ボランティアという無償の奉仕の世界、2つの世界を行ったり来たりしました。そして、無償の奉仕の世界に人生を賭けようと決心しました。神様が信仰の道を用意して下さい

っていました。サラリーマンの4年目に「休みの日を充実させたい」と思いついてからここまで来ました。

今日の福音は「最後の審判」と言われていますが、実際は「人に喜んでもらえる奉仕の人生が送れるかどうか？」だと思います。そう生きられるよう願ってミサを続けましょう。